



名古屋の偉人伝

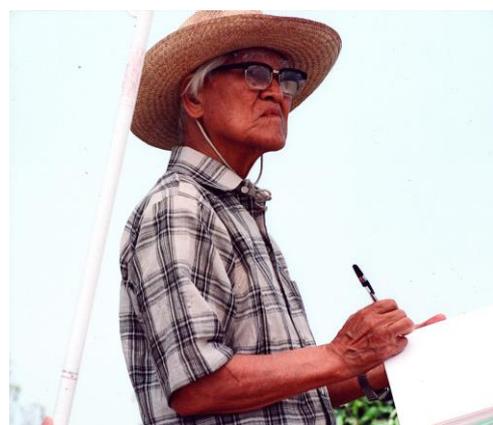
No.29

※「吉」の字は、正しくは土に口と書きます。

杉本健吉(すぎもとけんきち)の巻

ここがスゴイ！

画家、図案家。市営地下鉄のマーク、青柳ういろうのカエルマーク、名古屋能楽堂の「若松」など、手がけた作品は今なお多くの人々に親しまれています。



杉本健吉氏

(提供：公益財団法人 杉本美術館)

こんな人生を送ってきました

1905(明治38)年、名古屋市矢場町(現在の中区栄三丁目)に生まれました。子どものころから絵を描くのが好きで、1918(大正7)年に愛知県立工業学校の図案科に入学。卒業後は岸田劉生や梅原龍三郎から絵を学び、画家を志すかたわら、1927(昭和2)年には図案家として独立します。

1950(昭和25)年から吉川英治の連載小説『新・平家物語』の挿絵を担当し、全国的に有名になる一方、1951(昭和26)年に青柳総本家のカエルマークを、1956(昭和31)年に市営地下鉄のマークをデザインするなど、地元名古屋を中心に優れた図案家としても活躍しました。

1987(昭和62)年に杉本美術館が開館(残念ながら2021(令和3)年に閉館)したときには、すでに80歳を超えていましたが、館内にあるアトリエに足繁く通い、精力的に作品を制作しました。転倒して利き手である右手を骨折したときも、「杉本左吉」と称して左手で描き続けました。

1997(平成9)年に完成した名古屋能楽堂には、舞台背景となる鏡板を寄贈。通例の老松ではなく若松を描き、伝統とは何かを問いかけました。

2004(平成16)年、絵に捧げた一生を終えました。98歳でした。

もっとくわしく知りたいあなたに

『生きることは描くこと 杉本健吉評伝』木本文平／著 求竜堂

『杉本美術館だより』創刊号～138号 杉本美術館

『杉本健吉展 画業70年のあゆみ』杉本健吉／[画] 愛知県美術館

『杉本健吉ポスター画稿集 24枚組』杉本健吉／[画] 名古屋鉄道

『絵描き杉本健吉の昭和20年 1945年の手帳より』杉本健吉／著 一粒書房



『植物譜』

杉本氏から図書館に寄贈された本

1952(昭和27)年に開館した当時の建物には、杉本氏による壁画「平和の花園」が飾られていたそうです。